第七

157
107
1

奥

山

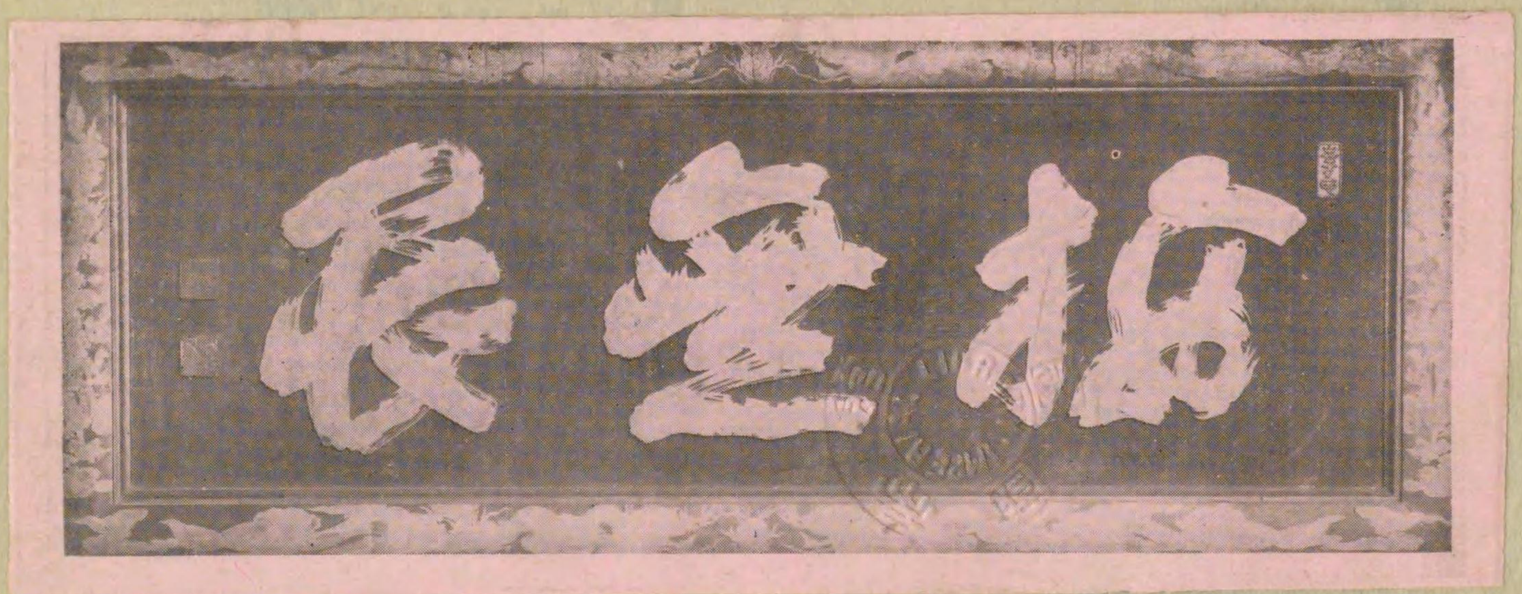
紀元二千五百九十一年版

磯谷紫江氏

第七

奥山會刊行

青楼仁和賀・助六廓の桂男 ―春山筆―



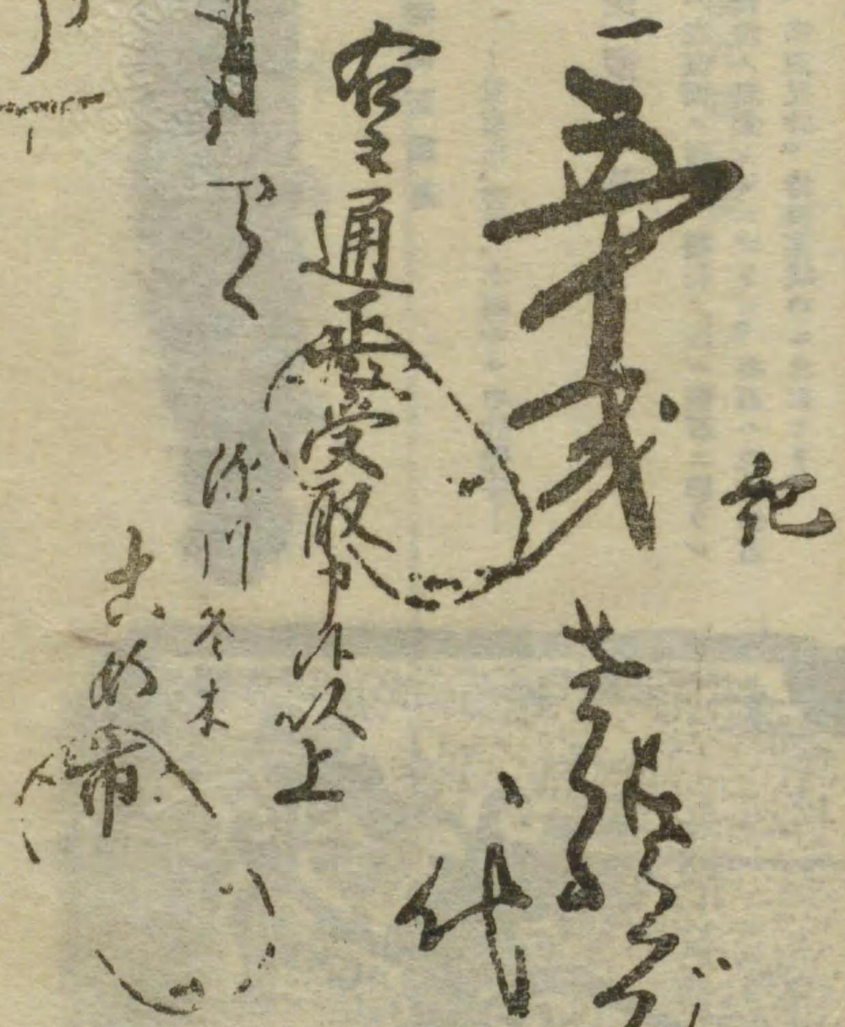
高玄岱之書（施無畏）淺草寺所藏

名物會
浅草公園奥山萬盛庵

第五影像

武藏之川淡草之川連出平源進注平海大悲
爲靈境亦已向矣然恣事釣漁天傷水族寃苦之
惟靈利數離回祿蓋以大悲爲此有所不安也幸遇
忠四海渡重物命禮崇三寶普興寺宇於是去歲闔寺
剃令嚴戒敎生乃以南自誓訪町北至聖天肩十町餘許
種福之勝業一在于斯
衷感仰有餘乃爲銘曰
維斯一心
延忍堪能
文明過時
敎化所及
第六歲次昭陽作噩春三月武川岸島鄉全龍山淺草

殺生禁斷碑 —目下傳法院境內—

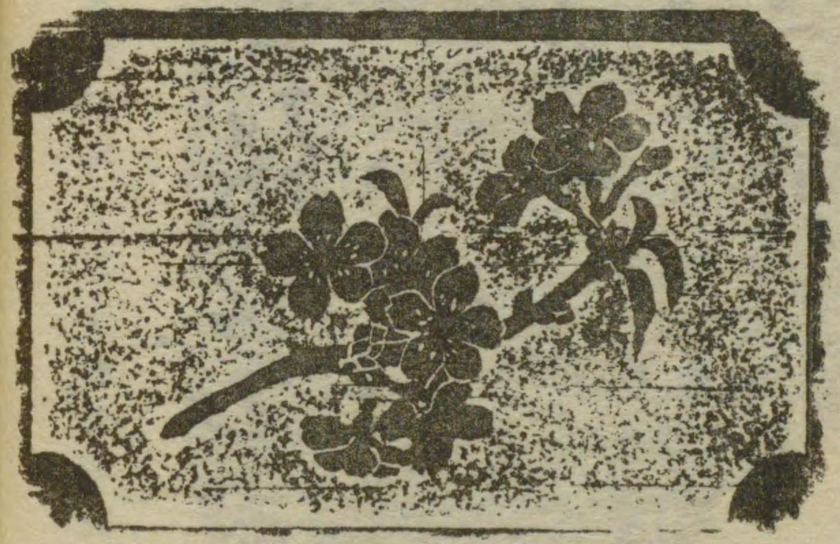


室田老樹齋翁墓

—東京市、淺草、本願寺々中敬覺寺—

紋 室田家之墓

墓誌ハ左側面ニ彫ル、櫻花ノ圖ハ墓石ニ彫ラレ老樹齋翁ノ記念トセルゴトシ。墓石ハ總御影石二、高四尺許。特設墓域中ニ北面セリ。



雷門再建寄附帳

甲第五百九拾八號（朱書）

（題箋金、表紙、白絹布）

淺草寺

金龍山淺草寺雷門再建緒言

金龍山淺草寺は遠く推古の朝に創建し一千二百有餘年の久きを經たる皇國無比の靈場にして觀世音菩薩の靈驗著きことは遍く天下公衆の知る所なり而雷門の如きも亦最古の創設に係り其雷風二天に於るも甚だ靈威ありき然るに今を距る二百有餘年德川三代將軍家光公の時に値り堂宇併せて火災に罹る公命じて再建し大に壯嚴を宏々せり慶應元年十二月淺草寺畔に火あり近傍家々火を避んと欲し家財を雷門下に移し之を制する聽かず疊々山積す爲に火を導き來て遂に救ふに術なく忽ち一宵の煙燼に付せり爾後十九年唯其礎石を存し空く露店腕車の輻輳地となり實に醜狀言ふ可らす由て茲に感ずる所あり聞說外邦に在ては古蹟名勝を千古に保全する爲に國民奮て資財を義捐し敢て吝むことなし是れ他なし一は上古の美術を保存して後學の參考に供し一は建築の壯宏を示して國光を他邦に耀すが爲なり我邦近頃下野に保晃會あり以て日光宮殿を永遠に保存せんとす西京に保勝會あ

り以て京坂地方の神祠佛寺古器珍寶を護持せんとす皆頗る美擧にして甚太だ稱賛して已まざる所のものなり是れ此の淺草寺たる啻に東京の名刹と云のみならず全國の人之れを尊崇せざるものなく日夜詣人の肩摩絡繹として絶へす況んや輩轂の下にして舊時と異なり五大洲中の貴紳名流も亦爭て來觀する皇國著名の靈場なるも其眼目たる雷門にして永く荒涼の景を存すること寔に遺憾に堪へざるなり因て該雷門再建の義東京庫廳へ請願せしところ本年六月十八日許可を蒙りたり故に廣く之を全國の有志者及ひ信徒に圖る希くは此本願を成就なさしめんが爲め多少を問はず此擧を翼賛し資財を寄附し大慈大悲の功德に背かざらんことを頓首伏願す

但し御寄附金取纏方の義は兼て第百十九國立銀行へ依頼に及候に付該銀行より右印章の請取証を持參巡廻いたし候間記名の帳薄へ御引合の上御渡しあらんことを乞ふ

明治十六年八月

雷門再建
淺草寺
發起中

淺草敎寺

墓蹟漫談會記

九月二十六日(土曜日)雨天、午後六時より瀧野川町中里藪忠に於て墓蹟漫談會第十五回例會開催。此日中秋良夜に當り觀月の趣向も仇に生憎の空摸様を唧ちながら風雨にもめげず出席の各位は都合十四名。

出席御連名 (着到順)

沼田頼輔　高岸拓川　矢吹葉人
鶴岡春三郎　結城素明　鈴木潤三
高橋城司　田口荏庵　古屋蘭渓
片岡美登　本多冬城　加藤隆壽
磯ケ谷紫江　酒井彦三郎

當夜會席の床上には狩野典信筆隅田川夜景の艸畫、大江の澈澱に金泥の月影を

印したる上に服元喬が『金龍山畔江月浮、江搖月湧金龍流……』の七言絶句を加へたる一幅を懸け、下に秋草の一瓶品善く置かれ、東面障子の外の壇上には、神酒徳利を前に、團子栗柿枝豆などの供饗と並ぶ餅子に芒の一叢、燭臺の蠟燭風に靡き雨を彈く音天の無情を訴ふるに似て中秋無月の慨殊に深し。

當日の獻立

一御煎茶
一御茶碗　小鯛　みつば
一酢之物　鳴門わかめ　小蕪
一旨煮　小芋　烏賊
一御酒
一蕎麥　田舎そば　更科(胡麻汁)　月見いもかけそば
一蕎麥湯
一番茶

一菓子　そばまんぢう

右そばまんぢうの中に隱せし竹箋に一二三の烙印あり、引當てたる三人の御方へ藪忠より左記景品を呈上

一白兎　一疋

二兎と龜　竹細工　一組

三兎屋もなか　一筥

其外各位御持寄の御土産と特志御寄贈品をそれ〴〵へ抽籤にて呈上

暮れてからまた一頻りの風雨にて、月はおろか人通りさへ絶え〴〵なる夜長を御機嫌よく談笑の賑ひ、歡興酣なる九時過ぎ早立の方もありて、十名ばかり後段の漫談に旁々雨の小歇を待たんと、めい〳〵思寄の小話を巡講。中にも例の加藤隆壽君、一手專賣怪談の凄いところを演じ、手振身振に百パーセントの景物附。滿場水を打つたる如くに謹聽。最後に藪忠老人、前回の大成功に油が乘つて今夜

157
107

は乞食が大丸の聲に出世した話を長講一席。大喝采の中に時計が丁度十點、程なくお開きとなつて、執念深くそぼふる雨の中を散會。

古人の狂歌に、

月影にあらで今宵にさす物はふりかはりたる雨の傘

因に、高橋城司君は先月奈良市の官幣大社春日神社禰宜に上任せられ、赴任後第一回の上京とて今夕着京、直に駈付けられし由。意外の珍客一同から歡迎の辭を呈した。二三面白き奈良の見聞談も披瀝された。

蒲鄙にて（十月二十日）

初汐や膳を斜に箸をとる

初汐の岩上に風あり黒羽織

No. 29

昭和六年十一月二十日印刷納本
昭和六年十一月廿五日發　行
「限定壹百部」

不許複製
奥山第七

編輯兼發行者　磯ケ谷孝治　東京府和田堀町和泉二四三番地
印刷者　宮西外次郎　東京市麹町區三番町六九番地
發行所　明元社　東京府下淀野川町中里一五一
印刷所　邦文舍　東京市麹町區三番町六九番地

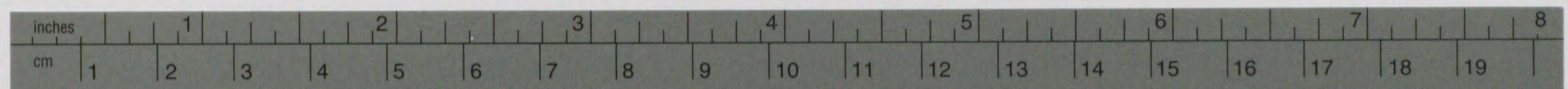
禁賣買

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black